

校長室だより

共学共高

第
74
号

令和6年11月19日発行

発行責任者

白梅学園高等学校長

武内 彰

ケアンズ修学旅行～part2

修学旅行3日目の朝である。朝食は、ホテルの2階でbuffet形式である。日本人旅行者に配慮してか、ご飯とみそ汁もある。私は毎朝ご飯派ではあるが、今回はパンをいただくことにした。生徒たちはそれぞれに好きなものをとっている。行動班ごとのテーブルになっているが、各自でいただきます、ごちそうさまをして出発準備に入る。



午前中は、レインフォレストーションにて「アボリジニ文化体験」である。ホテルから目的地まで専用バスで1時間弱である。ステーションに着くと、バス号車ごとに分かれて、ブーメラン体験、やり投げの見学、楽器演奏の鑑賞と続く。ブーメランは右投げ用と左投げ用があり、最初に左利きの2名の生徒が体験をした。ブーメランを時計の針に重ねるとすると、左投げ用は11時、右投げ用は1時に位置に傾けて、手首を利かせて投げると、うまく戻っ

てくる。上手に投げると、アボリジニの方から「My sister!」と声を掛けられている。私も挑戦したが、思うように戻ってきてくれない。私の前に、T先生が投げていたが、なかなか上手だ。T先生いわく、「前はブーメランが地面に突き刺さってしまったので、リベンジです」とのこと。長い木管楽器を使って、さまざまな音を出せることに感心する。生徒たちはその演奏の様子をビデオ撮影したり、聞き入ったりしている。

やり投げは単に投げるよりも、金属製のフックのついた棒を使って投げると、飛距離が増す。遠くの位置にあるヤシの実をめがけて投げるが、残念ながら命中するところは目にすることができなかった。場所を変えて、ステージのある観客席へと移動する。アボリジニの間で伝承されてきた踊りを披露してくれる。途中で、「一緒に踊ってくれるボランティアはいないか」と問われると、3名の生徒が早速手を挙げてステージに上がった。みんな、踊りを教わりながら上手に楽しんで踊っていたのが印象的である。後で聞いたことだが、この3名の中のMさんは、「最初から踊りたくて最前列に座った」と教えてくれた。いいですね。最後は、フェイスペインティングである。岩を原料とした塗料を使って、アボリジニの方が独特のペインティングをしてくれる。顔が嫌な生徒は手を選ぶことも可能だ。印象として顔に描いてもらっている生徒が多いようだ。最後に私も顔に描いてもらったが、かわいい生徒たちと違う男が出てきたので、アボリジニの方々も気合を入れてくださり、生徒の3倍くらい塗ってくれた。そのままの顔で当日の午後にショッピングセンターで買い物をしたのは私です。



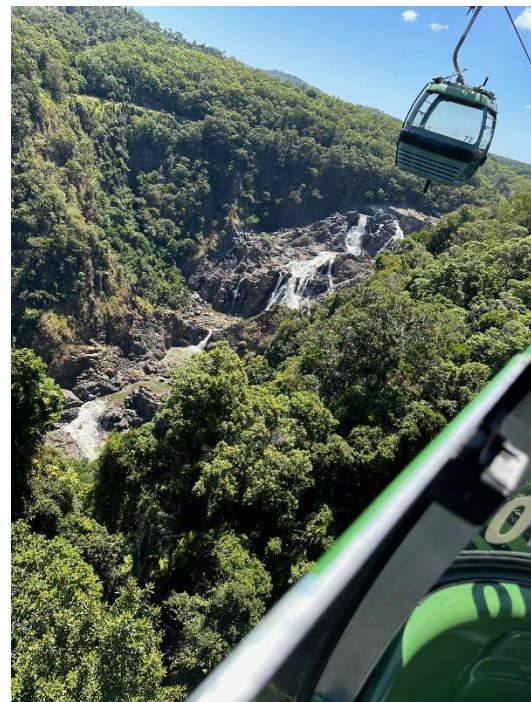


再びバスに乗車して、キュランダ村へと向かう。キュランダでは班別行動で昼食を摂ったり、ショッピングをしたりする。私たち教員チームは、私の勧めるレストランで食事を摂ることになった。私は野菜を巻いた食べ物を注文したが、T先生、H先生、I先生はカンガルー肉に挑戦した。感想を聞くと、「レバーのような味で、それでいて肉はビーフよりも固い」とのこと。私たちと同じレストランに、ある班の生徒たちもやってきた。彼女たちはビーフを「美味しい」といいながら食べていた。食事後は、散策しながらのショッピングである。個性的なお店がいくつも並んでおり、見ていただけでも飽きない。アイスクリームを食べている生徒もいれば、革製品を購入している生徒もいる。人気は、ハンドクリームやせっけん、洗顔クリーム、ブレスレットなど、おしゃれな品物が置かれているお店のようだ。



バスに集合して、スカイレールの駅へと向かう。わずか数分で到着した。スカイレールから見える広大なる熱帯雨林の自然は、感動的である。地球上にこんなところがあるのかと思うくらいだ。途中で段差 350m の滝を見ることがもできる。また、3 回見ると生涯幸せになるという、青色のバタフライを見たりしながら楽しむ。私の隣に座った M さんが、2 回もバタフライを見つけてくれて私たちは幸せに大きく近づいたのである。スミスフィールドまでのスカイレールでの旅は、ケアンズの豊かな自然に圧倒されたひとときであった。

その後は、バスでケアンズセントラルショッピングセンターにてショッピングである。生徒たちは思い思いにセンスの良いお土産を見つけて購入していた。私もセンター内を 3 周くらいしたが、すれ違う時に怪訝な顔をされたのは、フェイスペインティングのせいである。
(続く)





(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す）